

まず、生徒とともに授業を作るという観点から「授業における前提条件の合意形成」を生徒と図る必要があり、教員間で以下のことを確認した。「なぜ学ぶのか。何のために学ぶのか。」からスタートし、「何を学ぶのか（学ばせるのか。）」「どう学ぶのか（学ばせるのか。）」ということについて話し合い、それぞれの班から発表してもらった。

続いて、「個別最適な授業システムの条件」として、「個に応じた取り組み」にはどういったものがあるか、また「50分の授業のやりがい」とはどのようなものかについて各グループで話し合い、それぞれの班から発表してもらった。

最後に「生徒に実感させたい事」について教員間で共有し、少しずつでいいのでそれらが実感できる授業を作り、実践していくということを確認した。「授業を充実させる」というテーマの現職教育で、このように全教員で話し合う機会が今までなかったので、現職教育がたいへん充実したものであった。

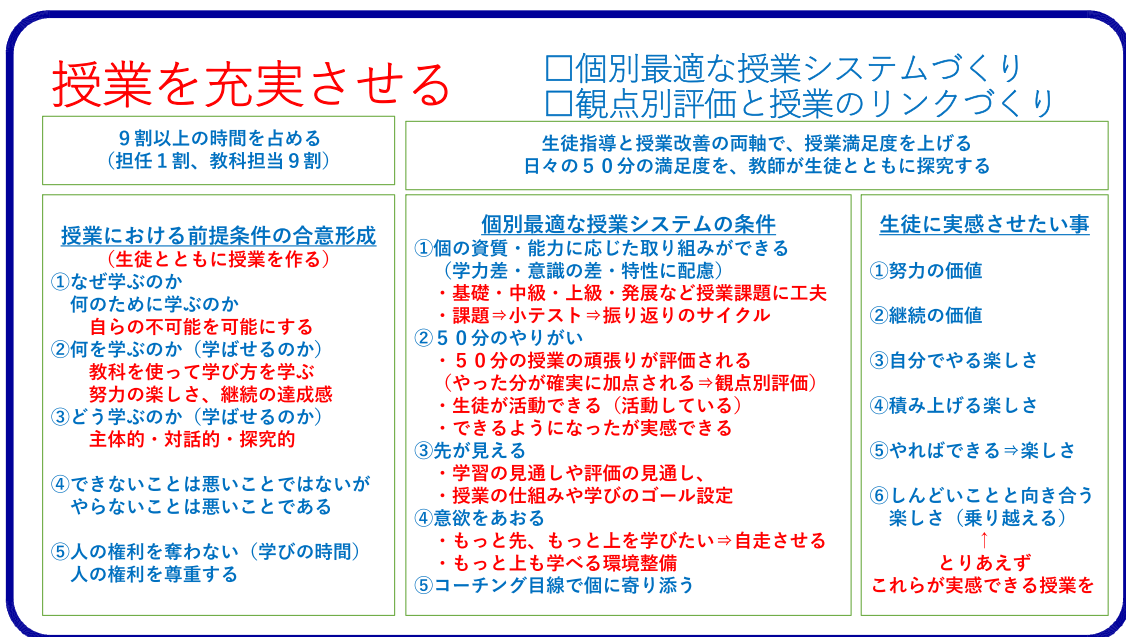


図4 ワークショップの成果物

d 総務省統計研究研修所

令和5年度第3四半期「地域分析」の統計研修に教員2名派遣 12/19~21

普通科改革に伴って「観光経済」や「宇宙ビジネス探究」、「宇宙観測と利活用」、「衛星データ分析と活用」など、探究的な活動を行う学校設定科目を多数設置した。統計資料を用いた分析や RESAS を用いた地域経済や政策立案、GIS を用いた地理空間マップやオープンデータを活用した授業を展開していきたいと考えている。

研修内容について、「地域分析と地域人口推計の基礎」ではエビデンスに基づく政策形成と地域分析や地域分析に役立つ様々な指標、因果関係と相関関係について学んだ。「RESAS を用いた地域分析」では地域産業構造、消費、観光、流動人口、地域経済循環分析について研修した。「小地域人口推計及び GIS による地域分析」では国税調査小地域統計の概要とデータの利用方法、小地域人口推移の考え方とその実施方法、既存の小地域人口推計、GIS を用いた地理空間情報のマップ化について学んだ。まさにこれからの地域の課題を学ぶ上で重要なものであり、探究的な学習に欠かせないものである。現職教育等で他の教員にも広め、生徒の探究的な学習に活用していきたい。

e 各教員の授業工夫紹介 「Try Report」 R6. 1/20~

多様化する生徒や社会のニーズに対応するとともに、時代の変化に適応するこ

とが学校に求められるなか、学校が向かうコンセプトを明確にし、それに沿った授業の実践が求められる。生徒の現実として学校生活の8～9割が授業であり、授業をとおして学びを深め、様々な力を身につけていくことが学校教育活動の中では圧倒的に多い。

普通科改革推進事業を進めるうえで、教職員が生徒や社会のニーズを理解することはもとより、本校の学びのコンセプトを教職員間で共通理解を深めて全教職員が一体となって掲げる教育ビジョンの実現を目指して個々の授業を立案し実践することが改革推進の肝である。

本校においては、「個別最適な学びの実現」と「50分間のやりがい」をキーワードとしつつ、より教科や科目の専門性や楽しさを追求できるような工夫と、主体的であり対話的、探究的な授業の開発および実践の取り組みをおこなってきた。それと同時に、個々の教職員の授業実践報告と自己評価、さらなる改善ポイントを整理した「Try Report」を発行して授業改革の広報に努め、個々の教職員が持つ知識や授業開発の観点とスキルを共有し合い、ともに高め合える環境作りに注力し、授業改革の意識と意欲の高揚と本校が掲げる教育ビジョンとの関連づけへと繋がった。また、真摯に授業の改革に向き合う教職員の個々の努力が形となり顕在化され、周知されることで個々のポジティブな教育活動へと発展するよう重視して広報に努めている。

図5 Try Report 1号から10号のまとめ

Try Report!

Digest

2024.02.05 VOL. 1 to 10

「個別最適な学び」
「50分のやりがい」を探究!
なぜを発見! ワクワク、楽しい!
生徒とともに創る授業! 授業満足度UP!

VOL.01	教科	理科・化学基礎	協働的	対話的	ICT
	テーマ	協働的な学び（生徒同士で教え合い学び合う）の相乗効果について			
VOL.02	教科	理科・生物基礎	探究的	協働的	対話的 体験的
	テーマ	「知識を学ぶ」から、「考え方と面白さを学ぶ」へ ～授業方法の探究～			
VOL.03	教科	数学	協働的	対話的	
	テーマ	教え合い、助け合いの精神を持って数学を乗り越えることは教える側の生徒、教えられる側の生徒にとってどのような効果があるのか。			
VOL.04	教科	情報・情報Ⅰ	個別最適	ICT	PDCA 学習計画 観点別評価
	テーマ	「主体的に学ぶ」ことが実践できる授業展開の探究			
VOL.05	教科	地歴公民・公共	探究的	リアル	時事
	テーマ	「社会を身近に感じさせ、興味を持たせることは、自己肯定感や自己有用感の高まりへと繋がる」～授業の展開を考える～			
VOL.06	教科	理科 物理	探究的	体験的	個別最適 リアル
	テーマ	実物・実験など、「リアル」にフォーカスしたおもしろ物理			
VOL.07	教科	理科 科学と人間生活	協働的	対話的	ICT
	テーマ	授業での活動の自由度を上げて生徒主体で教え合いができる授業を理想と考えるが、現実には難しい点が多い探究			
VOL.08	教科	英語 論理・表現Ⅰ（1B）	個別最適	PDCA	学習計画 協働的
	テーマ	自然に学び合える環境作り			
VOL.09	教科	国語科/現代の国語・言語文化（1AB）	ポートフォリオ	PDCA	学習計画 自己評価 観点別評価
	テーマ	1枚ポートフォリオを利用した学びの評価（バクリ） （新訂 一枚ポートフォリオ評価OPPA 堀哲夫 著による）			
VOL.10	教科	保健体育	探究的	リアル	ICT PDCA 観点別評価
	テーマ	健康をテーマに、自身の日常生活と生き方を振り返り、今後の生き方を考察させる授業の実践			

「理想を語る!」前提条件の共有を! **学習の見通しと評価!**

工夫された授業を受けられる喜びと安心を!

失敗はない! やらなかったことに挑戦する教師の姿を見せる



③ コーディネーター研修

普通科改革推進事業の中には、新しい学校に必要なとされるコーディネーターの設置に係る調査研究がある。地域と連携した魅力的な探究学習を実現するためには、従来の教員だけではなく外部と学校をつないだり、魅力的な探究学習を企画提案する新しい職務が必要である。しかしそのような職務はこれまで学校の中に存在しなかったため、改革事業に付随して置かれたコーディネーターは文部科学省主催の諸々の研修に参加してその新しい職務を効果的に進めるための能力を磨いた。本年はオンラインによる研修が5回、会場に集まっての対面研修が3回あり、本校の普通科改革コーディネーター1名がその担当として、福島県で行われた対面研修以外のすべての研修に参加した。他の2名の地域コーディネーターは雇用母体や勤務背景が異なるということで本年度は参加しなかったが、コーディネーターの職務という点では変わりがないので、ともに参加した方がよかったのかもしれない。これは次年度以降の留意事項である。

(6) 各コースのカリキュラムと学校設定科目の内容

本校では数年前から地域を学びの資源とする学校設定科目をグローバルコースを中心に多く実施してきた。来年度から始まる新学科3コースの特設科目はこれらを下地としている。まだ本来の探究的な学習機会としては完成していないが、地域の人や企業とのつながりを築き、地域の魅力を知る機会になっている。平成29年度に始まって以来、小修正を行いつつ現行のスタイルが定着してきた。下に本年度行ったこれら科目の主な地域活動を示す。

○ マリンスポーツ

6～9月で6回

- ・校内施設でのプール実習や近隣海域での海洋実習を行い、PADI オープンウォーター・ダイバーライセンス取得をめざす。
- ・上級救命講習級救命講習修了証取得可能。
- ・本校の学習成果発表会で成果と課題を報告予定。



○ 串本デュアル（長期インターンシップ）

9～11月で10回

- ・地域の7カ所の事業所における課題探究活動 紀南地方を活性化させるための仮説を立て、その仮説に見合った事業所を選び各事業所での就業体験を行った。自分が立てた仮説の検証を進め、自分なりの結論を導き、クラス内での交流や発表を行い、考えを深め共有を図った。本校の学習成果発表会で自分が立てた仮説検証の結果と提言を発表予定。



○ 南紀自然文化探究

4～1月で12回

- ・南紀熊野ジオパークセンター職員を外部講師とした講義やフィールドワーク等
- ・紀南地方の小学校中学校の校歌調べ、紀南地方の地質、潮岬灯台巡検、ジオサイト巡検、ガーネット探し実習等

当科目は、理科と国語科の融合科目である。国語科で培った資料をまとめる力が、理科の



探究内容であったレポート作成やポスター発表用資料の作成などに転用できた。とりわけ、今年度の目新しい取り組みが、紀南地方の小学校、中学校の校歌の中に出てくる「ハマユウ」や「くろしお」を調べて発表したことである。生徒は、自分の出身校の校歌を調べたり、自ら進んで探究する姿が見受けられた。中でも、学校の立地条件により、ハマユウが自生している近辺の学校と、それ以外の学校には歌詞の中に差が見られるなど、歌詞から地形の差を分類することに考えが及んだ生徒がいたことは特筆に値する探究結果であった。また、探究結果発表では、1学年下の2年生の国語表現の時間に行き、2年生は3年生で実施する内容や発表方法の理解、そしてメモをとったり付箋にまとめ、感想を書く等、言語活動の充実にも繋がった。



○ 水産生物探究

6/7, 7/5, 9/13, 10/4, 18, 11/8, 12/6, 1/10

- ・古式捕鯨についての講義
- ・クジラ博物館見学
- ・磯採集（生物調査）
- ・古座川ウナギ石漁法実習
- ・近畿大学チョウザメ出前講義
- ・珍魚釣り体験
- ・乗船実習
- ・ビーチコーミング等



近隣の浜辺、川、そして日本遺産である「鯨とともに生きる」の理解促進のため、鯨博物館の見学や講義をとおして、捕鯨について賛成派と反対派に分かれて探究し、それについての小論文を書くこととおして、文化としての捕鯨・商業としての捕鯨についての理解を深めた。また、お互いの意見を交流させることにより、生徒自ら今後における捕鯨の在り方について考察できた。また、珍魚釣り体験では、釣りそのものを楽しむとともに、魚の珍しさを競い合うこととおして、串本近海の生物多様性の理解と、海の環境変化（熱帯化など）を直接体験することができた。また、その釣り上げた魚の形態・特徴・分布や個体数などの情報を分類し、今後「串本古座高校珍魚図鑑」としてまとめる構想である。



○ 南紀食文化探究

6/1, 15, 22, 7/6, 9/14, 11/16, 12/14, 1/11

- ・地域の郷土料理に関する講義及び調理実習
 - ・柚子の収穫体験
 - ・武庫川女子大学学生との交流
- 食生活改善推進協議会の方を招いて、今年度の



前半で金柑ジャムづくりやめはりずし、うづめ汁やトルコ料理などの郷土料理の調理体験実習を行った。後半では宇宙食の開発を各自探究的に考えて、それを武庫川女子大学との交流会で発表した。今年度の前半で体験した郷土料理を宇宙食に生かす等の面白いアイデアを突き詰めた発表であったが、大学からは、殺菌方法をどのようにするのかや、調理方法について質問があったが、今年度は案だけでとどまっていたため次年度は試作に取り組む方向で進めていきたいと考えている。



○ 1学年における総合的な探究の時間

1学年の総合的な探究の時間に行ったことは、コミュニケーションの取り方を意識して、ソーシャルスキルトレーニング、教員へのインタビューから新聞を作るという活動、宇宙に関連した学習だ。2学期以降時間をかけて取り組んだのは「探究とは」というところの確認と実際に行ってみるところだ。ワークを利用しながら、探究学習の基本的なサイクル「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」を確認した。学年の後半には、それぞれの生徒が自らの興味関心によってテーマを設定して探究・発表を行った。今後も、生徒が自ら探究を深められるよう、計画・指導をしていきたい。

○ 2学年における総合的な探究の時間

2学年では、1年次から地域探究学習を実施してきた。1年次では、当地域で働く多くの方から主に職に就くというテーマでお話ししてもらい、職や自分自身のキャリアについて思考してきた。2年次では改めて①公務員・②自営業・③福祉の3つの立場の人からお話を聞く機会をいただき、「持続可能な町づくりに必要なこととは何か」という問いを学年で立て、それに対して、防災や観光、ごみ問題等、大きく8つのカテゴリーに分かれて、インタビュー調査を行ったり、調査内容を整理分析して発表したりするなどの探究的な学習を進めている。今後は、3年生において、高校生目線で自分たちが取り組めるプロジェクトの実施をアウトカムとして進めていきたいと考えている。

(7) 普通科改革に係る生徒活動

① CGS (Community General Support : 地域包括支援) 部員の地域との連携活動

今年度実施した、CGS部の地域連携活動の例を以下に示す。

- ・避難路整備
- ・檜野崎灯台管理
- ・東牟婁地方青少年育成県民運動推進委員連絡協議会での発表
- ・宇宙出前授業（こども園，小学校，中学校等）での補助
- ・宇宙関連事業でのイベント参加及び運営補助
- ・古座川の秋祭り出店
- ・橋杭岩ランタンフェスティバル
- ・Tokyo Girls Collection イベント周辺出店
- ・カイロスロケット発射に関わるイベント
(見学場清掃、発射見学会場での出店及び檜野崎灯台からの Youtube 中継)
- ・古座川サイクルイベント運営補助、等

このように、CGS部が地域と連携した事業は多岐にわたる。また、今年度は特にクラブとしての活動に加えて、一般の有志の生徒を募ってイベントに参加してもらった。広く生徒全員に参加を募ることで、より多くの生徒が地域と関わる活動を経験してもらうことで、より多くの生徒が地域に愛着を感じるようになっていたり、地域の方から感謝される機会を得ることが出来たと考える。今後はCGS部が地域と関わる活動をより深く進めながら、本校の生徒全体が地域から学ぶ、地域とともに学ぶことを意識しながら取

り組んでいきたいと考える。

② 天体ワークショップの補助 7/30

天文学普及活動グループ（略称：天プラ 代表：東京大学 高梨氏）主催の手作り望遠鏡工作と星空鑑賞アプリの利用説明会が本校を会場として行われ、本校生徒8名がワークショップの補助スタッフとして参加した。生徒らは事前に望遠鏡づくりを体験して学習済みであったので、参加した子どもたちをよくサポートし保護者や主催者からその働きぶりを高く評価された。



また夕刻から宵にかけては、潮岬望楼の芝広場に場所を移し、自ら作った望遠鏡で星を見る観望会を行った。本校から持ち込んだ望遠鏡等も使い、拡大された月面等を鑑賞した。

【参加者の感想から一部抜粋】

子供が楽しそうで良かったです。低学年だったので、天体のことは早いかな、と思って来たのですが、低学年の子でも十分に楽しめて、帰りの車の中でとても満足そうでした！お手伝いの学生さんたちは、高校生なのに心配りがあって、本当にありがたかったです。質問すると、助けてあげたい、という気持ちが溢れていて、親として、見ている側としては本当に素晴らしい学生さんたちだな、と思いました。低学年の方に居てくれていた、工作がだいぶ得意なので、と言ってくれていた男の子は、本当に楽しそうに教えてくれて、印象に残りました。

③ 学校説明会 体験授業 体験観望会 8/19

後述の宇宙シンポジウム開催に合わせて、その前日に学校見学と体験授業の機会を設けた。これは宇宙に関心のある生徒が宇宙シンポジウムやロケット発射場見学に参加するために串本町を訪れるなら泊まりがけになることを予想し、その前日なら参加しやすいだろうと考えて本校で行った学校紹介企画である。また夜間には、潮岬の見晴らしのよい広場で望遠鏡や双眼鏡を用いながら当地の美しい星空を鑑賞する観望会も設けた。これらの企画に本校生徒有志が補助スタッフとして参加し、入学に関心を寄せる中学生に生き生きとした先輩ぶりを発揮していた。



④ 宇宙シンポジウム in 串本2023 8/20

和歌山県は県下に民間ロケット発射場が建設されることが決定したことをきっかけに、毎年串本町を会場として全国の有識者をゲストに招き宇宙に関連するシンポジウムを開催してきた。本年は5回目の実施となり、令和6年度から本校で「宇宙探究コース」が開設されるのに伴い「宇宙教育」をテーマとして8月20日に開催された。ゲストには、民間では世界初となる月面着陸に挑戦した企業や宇宙ビジネスの総合商社、スパー